

インクル

創刊2号

財団法人 共用品推進機構

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町
2-5-4 OGAビル 8階

"Incl." by The Kyoyo-Hin Foundation

目次 / Contents

- ・点描・インクルの微笑み
スウェーデンで見つけた素敵な電話(森川美和)…………… 2
- ・特集:「共用サービス」最前線ルポ
誰にとっても利用しやすい施設づくりを目指して
(イトーヨーカ堂、ソニー、龍安寺)…………… 3
- ・金融機関の「共用サービス」を担う新型ATM
(富士通)…………… 6

- ・きわめて“一般ピープル”な私の本音です!
『弱視OL奮戦記』刊行(芳賀優子)…………… 7
- ・生活の音を見る本『音見本』が完成
「聞こえない音情報」「大切な音情報」を知る手がかりに
(松井 智)…………… 8
- ・シリーズ・kyoyo人 第2回
星川安之さん(財)共用品推進機構専務理事・事務局長)…… 10
- ・共用品推進機構ニュース…………… 11
- ・ニュース&トピックス:コクヨほか…………… 12
- ・キーワードで考える共用品講座
第2講:共用品と政策(後藤芳一)…………… 13
- ・ザ・レビュー…………… 14
- ・『インクル』からのお願い…………… 15



(イラスト: 牧内 智子)



インクルの^{ほほえ}微笑み

スウェーデンで見つけた 素敵な電話



8月の半ば、短い夏の終わりを告げようとしているスウェーデンを訪ねた。



ストックホルムでは、バギーを押す人の姿が目立つ。折りたたみ式のバギーばかりではなく、横幅が広いものも、縦に長いものもあり、大きいバギーでも楽に移動できることを物語っている。

実際、ストックホルムの横断歩道は、ほとんどが真ん中の段差がなく、バギーや車いす、自転車の横断がしやすく配慮されている。電話ボックスに入る前のちょっとした段差にも、スロープがついている。もちろん、電話機の5番には凸表示もある。電話は低い位置に配置されており、みんなが使いやすいようになっている。

何気なく使う地下鉄にも、決まって「HISS」(スウェーデン語でエレベーターという意味)という文字とピクトグラムが表示されたエレベーターが設置されている。もう何十年も前から設置されているそう。移動に不便がない時はエスカレーターで十分だが、ひとたび旅行者になって重いスーツケースを引っ張っていると、エレベーターは「こんな便利なものはない!」と叫びたくなるほど有り難いもので

ある。もちろん、足の不自由な方、お年寄り、赤ちゃん連れのバギー使用者はみな、これを使っていた。

街角の信号機は常にカチカチという音をたてて、赤信号であることを知らせる。青ランプになると、「早く行きなさい」と言わんばかりに、この音が気ぜわしく速度を増す。青から完全に赤になる前には、一度音が止まり、また、ゆっくりとしたカチカチ音になる。奨励してはいけないことであろうが、どこかの紳士が読書にふけりながら、前も見ずこの音だけで、さっそうと横断歩道を渡っていた姿はあっぱれだった。



帰国の日。空港の免税店でスウェーデン製の電話を見つけた。特別な機能はなさそうだが、5番に凸点がついており、大きい文字で、ボタンも押しやすい。レジで、「皆が使いやすい電話ですね。これ日本では共用品って言うんです」と怪しげな英語でちょっと説明してみたが、「ふむふむ、そうですか……」といった感じ。あと何年か後に「共用品ですね」と言えば、「KYOYOHINね」などと答えてくれることを夢見ながら、しっかり購入した。

(写真: ^{にしがわ}西川 ^{なみ}菜美、文: ^{もりがわ}森川 ^{みわ}美和)

特集 「共用サービス」最前線ルポ

誰にとっても利用しやすい施設づくりを目指して

大型ショッピングセンター(SC)から、企業ショールーム、観光施設まで 誰にとっても便利で快適、安心なサービスを提供しようという動きが静かな広がりを見せている。段差の解消などハード面のバリアフリー化、点字や手話など特定の障害者向けサービスの充実といった対応にとどまらず、健常者を含めたすべての人に利用しやすい「共用サービス」を目指す努力も目につく。この夏に訪ねたイトーヨーカ堂葛西店(東京・江戸川区)、ソニー本社「エコ・プラザ」、京都・龍安寺、それぞれの取り組みをルポする。 (高嶋 健夫、写真も)

葛西店は延べ床面積約7万3800平方メートルという超巨大店舗で、同社としては17番目のハートビル法の認定店舗でもある。段差の解消などハード面でのバリアフリー化と併せて、買い物介助サービスなどソフト面でも同社がこれまで積み上げてきたノウハウを注ぎ込んだモデル店舗となっている。

「バリアフリー見学会」は、そうした施設、接客対応を地域住民によく知ってもらおうという狙いでヨーカ堂が新店舗開店時に開催しているもので、今回は地元の江戸川区と隣接の浦安市に在住する約100人の障害者、高齢者が参加した。簡単な説明の後、10ほどのグループに分かれ、手話のできる店員らをガイド役に約2時間かけて店内を見て回った。

主な配慮設備や工夫を動線に沿って追っていくと、まず、駐車場には正面入り口に一番近いところに13台分の車いす専用駐車スペースを配置。店舗入

イトーヨーカ堂葛西店

巨艦店舗にバリアフリーの全ノウハウを結集

「じっくり店内をご覧いただき、お気づきになった点、改善すべき点がありましたら、『ここを直せ』と遠慮なくご指摘ください」

7月2日、金曜日。イトーヨーカ堂の国内173店目の新店舗で、同社最大の売り場面積を持つ「葛西リバーサイドモール」のオープン前日。開店直前の準備に追われる同店で、「バリアフリー見学会」が開かれた。



入り口正面の車いす専用駐車場(左)。車いす対応のエレベーター(右上)と優先レジカウンター(右下)。中央は「ふれあい灯」で、ボタンを押すとメロディーが流れ、回転灯がつく





バリアフリー自販機の説明を熱心に聞く見学者

り口には、点字案内板。その脇には貸し出し用の車いすとともに、膝の上に固定できる独自開発の車いす用の膝乗せトレイが置かれている。

入り口左にある3台のエレベーターのうち、1台はドアの開閉スピードを抑えた車いす対応。階段には、高さを離れた2本の手すりが付いていて、点字シールが貼ってある。トイレはいわゆる多目的トイレのほか、男子トイレ、女子トイレ双方に「お子さまといっしょに個室にはいれます」の表示が掲げられている。

通路はどこも平坦で幅も十分。天井からつり下げられた案内表示の文字も大きく、見やすい。食品売り場のレジには車いす優先カウンターがあるが、手動の車いすなら、ほかのレジでも十分通行できるという。また、各フロア中央には、ヨーカ堂ご自慢の「ふれあい灯」が設置されている。これは何か困った時にボタンを押すと、上部にあるランプが点灯し、同時にメロディーが流れて、近くの店員に知らせる

装置だ。このほか、1階中央の休憩スペースには、缶飲料のバリアフリー型自動販売機も置かれている。

買い物介助サービスについては、事前に電話・ファクスで予約できるほか、来店時にサービスカウンターでも頼めるし、場合によっては「ふれあい灯」を使って頼むこともできるそうだ。店内には「赤ちゃん休憩室」も用意されている。

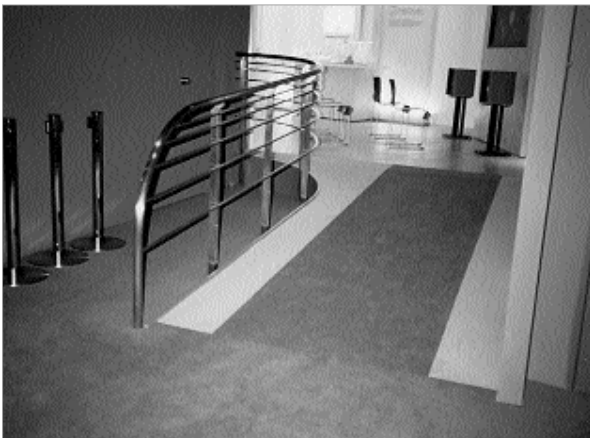
見学会の参加者の中には「こうした催しは初めての経験で、とても有り難い」と語る人も多く、係員に質問したり、実際に装置を試したりと、熱心に見学していた姿が印象的だった。

ただ、「あまりの広さに、どこに何があるのか覚えきれない」と従業員でさえ苦笑するほどの巨大SCだけに、実際の営業開始以降、いろいろな課題が出てきそう。ヨーカ堂でもその点は十分予想していて、「まだまだ手探りの状態。今後とも、お客様の声に率直に耳を傾け、問題があれば、順次できるところから改善していきたい」(大本 正樹・人権啓発室総括マネジャー)と、いっそうのサービス強化に意欲を見せていた。

ソニー「エコ・プラザ」

限られた空間を巧みに生かしだ さりげない配慮”

東京・品川区にあるソニー本社ビル1階に今年5月、「SONY ECO PLAZA」がオープンした。環境保全技術や環境配慮型製品など、ソニーの環境問題への取り組みをわかりやすく展示した同社初のテーマ別ショールームである。ソニー製品を展示した「ソ



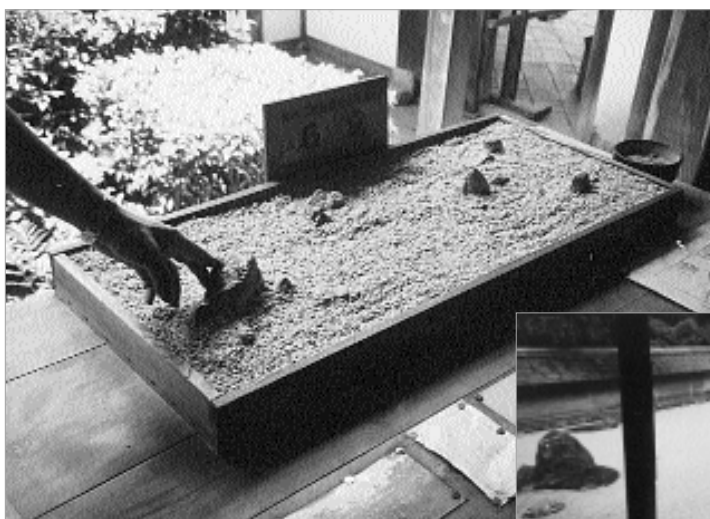
「エコ・プラザ」の入り口スロープ(左)。展示品はすべて手で触れ(右上)。最新の環境保全技術の実験を見せてくれる(右下)

ニー・ミュージアム」脇に併設した、80平方メートルほどの小さな展示場だが、さまざまなバリアフリーの配慮が施されている。

スロープを通じて中に入ると、まずソニーの環境理念を紹介するミニシアターがあり、続いて、最新の環境保全技術を実演で解説する「研究開発コーナー」、リサイクル製品や省エネ製品を並べた「商品開発コーナー」、同社の環境行動計画をパソコンで紹介するコーナーが、緩やかな曲面のレイアウトで配置されている。

ミニシアターでは聴覚障害者のために字幕入りのバージョンを用意、パソコンはいすの高さを違えた2台を配置している。最大の特徴は、共用サービスを目指して「体感できる」ことを重視した点だ。2名の専門スタッフが常駐、解説しながら見学する仕組みとなっており、研究開発コーナーでは、発泡スチロールを溶解して再利用する技術などを見学者自身にも手伝ってもらって実験する。また、商品開発コーナーに展示してあるリサイクル製品などのサンプルはすべて、手で触ることができる。

「エコ・プラザ」を担当しているのは、(財)共用品推進機構のメンバーでもある同社社会環境室の喜多川 桂子さんで、「オープン前には車いすの社員の方に点検してもらうなど、限られた範囲ではあるが、誰もが楽しく理解していただけるように、できる限



視覚障害者のための「ミニ石庭」は、本物の庭（右下）と同じ砂、石を使っている



りの工夫をしたつもりです」と語っている。

開館時間は平日の午前10時～午後5時。見学の所要時間は約50分。要予約。

龍安寺

手で触れる静寂 「ミニ石庭」の心遣い

枯山水の方丈庭園で世界的に知られる大雲山龍安寺(京都市右京区)に、視覚障害者のための「手で触れる石庭」が登場したのは92年3月。上がり框の左手、本物のお庭の手前に、点字の説明パネルとともに置かれている。

「目の不自由な人にも石の配置がわかるように」という、ある寺務所スタッフの発案でつくった。大きさは43×96センチで、ほぼ20分の1の縮尺。砂は本物と同じ「白川砂」を用い、石も境内五山を1週間近く歩き回って、形の似たものを見つけてきたという。京都の有名寺院でもおそらく最も早いバリアフリーの対応だが、修学旅行で訪れた群馬県の盲学生から感謝の手紙が届くなど、評判は上々だ。

龍安寺ではこのほか、石庭の由来などを解説したテープを流すサービスも提供している。石庭手前の売店に申し出れば、流してくれるが、「本来は静寂を味わってもらいたいので、要望があった時だけ静かに流すようにしている」(岩田 晃治氏)という。

京都府福祉のまち推進室によると、バリアフリーへの対応を実施している有名寺社には別表のようなものがあり、少しずつだが着実に増えているという。

表 京都の主な寺社のバリアフリー対応の例

西本願寺 (京都市)	スロープやリフトで阿彌陀堂、御影堂(いずれも重文)に車いすで上げれる
三十三間堂 (京都市)	手で触れる千手観音立像や三十三間堂のミニチュアがある。車いすで見学可
知恩院 (京都市)	重文の本堂の階段に、傾斜の緩やかな階段を上置きし、上りやすくした
平等院 (宇治市)	庭園内の砂利道を通行できる車いすを貸し出し。車いす対応トイレ、点字案内板など

出所)京都府『福祉のまちづくり100選』(1997年)より作成

金融機関の「共用サービス」を担う新型ATM 富士通の「FACT-V」、秋から都銀店舗で稼働へ

富士通が開発した最新鋭ATM（現金自動預け払い機）が今秋、都市銀行の店舗などにお目見えする。すべての人に扱いやすいユニバーサルデザインを追求した「FACT-V」がそれ。金融ビッグバンに伴い、コンビニエンスストアや外食産業との提携など、個人向けのリテール営業の強化を目指す金融機関にとって、「共用サービス」提供の有力なツールになりそうだ。

「FACT-V」は、富士通が取り組んできた“バリアフリーATM”の3世代目に当たる新型モデルで、開発発表した昨年度、早々とグッドデザイン金賞（医療・福祉部門）を受賞。今年5月から本格的に販売を開始した。

最大の特徴は、操作性への配慮。見やすい大型の液晶パネル（12インチと15インチの2タイプ）を採用、画面上のボタンも大きくするとともに、グリーンが「確認」、黄色が「訂正」、赤が「取り消し」



液晶画面が見えない場合は、ハンドセットで操作できる
（撮影：高嶋健夫）

など表示色にも工夫している。もちろん、1つひとつの操作はすべて音声で確認できる。また、機械の左側に電話の受話器型の「ハンドセット」があり、音声ガイドに従い、プッシュホンと同じ配列の10キーを使って操作

できる。このハンドセットは店内の行員と話すためのインタフォンを兼ねている。

前面パネルの下は、車いすの人でもアプローチしやすいようにカーブ状に中がえぐれた形にした。パネル台の高さは835ミリと一般のATMと同じで、人によってはやや高いが、その点をカバーするため、正面の現金取り出し口の上に鏡をセットし、画面内容を確認しやすく工夫している。また、手先をけがしないように、現金取り出し口のカバーを上下開閉式にするなど、細かな点にも配慮を施している。

このほか、入れ替えがスムーズにいくように従来型とほぼ同じサイズに納まるよう設計、ユーザーに対する共用化のみならず、既存のATMとの“共用化”に考慮した点も特色となっている。

標準価格は約900万円。富士通によると、すでに第一勧業銀行と住友銀行での導入が決定、今秋にも一部店舗で稼働開始となる予定といい、同社では当面、年間5000台程度の販売を目指している。

問い合わせ先：

富士通(株) コンシューマトランザクション事業本部販売推進部 (TEL 03-3216-9242)

問い合わせ先：

- ・(株)イトーヨーカ堂広報室 (TEL 03-3459-3057)
- ・ソニー(株) エコ・プラザ
(TEL 03-5448-4455、FAX 03-5448-2560)
- ・龍安寺 (TEL 075-463-2216)
- ・京都府保健福祉部福祉のまち推進室
(TEL 075-414-4551、FAX 075-414-4694)

きわめて“一般ピープル”な 私の本音です！

『弱視OL奮戦記』、都市文化社から刊行

芳賀 優子(個人賛助会員、ヤマト運輸(株) 社員福祉センター)

E & Cプロジェクト以来の有力メンバーで、行動力と明るいキャラクターで知られる人気者、芳賀優子さんが自らの生い立ちや日常生活をつづった『弱視OL奮戦記』(都市文化社、本体1600円=税別)を上梓した。企画から足かけ3年。この間に感じたこと、読者へのメッセージを「インクル」に寄せていただいた。

ただのしがないOLの芳賀が、1冊の本を書いてしまうという大事件が起きてしまいました。8月20日に都市文化社より刊行された『弱視OL奮戦記～私、まっすぐ歩いてます。』がそれです。

事の起こりは、1997年初冬。E & Cプロジェクト編『バリアフリーの商品開発』(日本経済新聞社)のなかで私が書いた「バリアだらけのハイテク社会」を読まれた出版社の方から、「1冊の本を書いてみませんか？」というお話をいただきました。

自分が本を書くなんで、夢にも思ったことのない私です。「できる」という確信もないままに、一か八かで、いただいたチャンスに飛び込んでしまいました。昨日のことは忘れ、明日のことは考えず、今日だけに生きる ああ、私はどこまでラテンなのでしょう？

実際に書いてみて、心に残ることが2つありました。1つは、全体の構想、つまり、何を、どのように、どんな順序で書くのかを考えるのが、なによりも大変だということです。「本を書く」というと、一心不乱に原稿用紙にペンを走らせたり、パソコンのキーボードを打っている姿を思い描いてしまいがちです。が、これは余裕の姿であることがわかりました。

書く内容がなかなかまとまらず、あっちへフラフラ、こっちへフラフラ、果ては家でゴロゴロ……。

こんな傍目には「何もしないで遊んでる」とうつる姿が、もっとも頭を悩ませ、エネルギーを消耗している姿なのです。

もう1つは、出版社の方の提案で、本文のテキストデータを保存したフロッピーディスク版を用意できたことです。

「せっかく芳賀さんがお書きになられたのですから、視覚に障害がある方にも読んでいただけるような方法を考えてみましょう」

「書く」ことに必死になっていた私にとっては、まさに「天の声」でした。いろいろなメディアでの同時・同価格出版が理想であることは十分理解しています。しかし、今仕事として私たちにできることは、活字とフロッピーディスクの2つの媒体を用意することでした。本当に難しい「誰にでも読める本」を考える、はじめの一步になれば、と願っています。

障害者や高齢者を題材にした、涙ポロポロの感動もの、心のふれあいを妙に強調した美談。私はこういうのが大の苦手です。

毎日の殺伐とした生活のなかで、このような「オアシス的要素」を求めたい気持ちはよくわかります。しかし、自分たちとは違う「特別な人たち」の存在を求めることと、私たちが推進している共用品・共用サービスの考え方とは、どう転んでも一致しません。そこで、弱視である私の本音を、ありのままに書いてみることにしました。

きっと、どこにでもいそうなOLの姿を感じていただけるのではないのでしょうか？ きわめて一般ピープルである私の本音が、少しでも何かの参考になれば幸いです。

問い合わせ先：都市文化社 (TEL 03-3268-6031)



生活の音を見る本 『音見本』が完成

「聞こえない音情報」「大切な音情報」を知る手がかりに

まつい さとし (個人賛助会員、筑波技術短期大学)

聴覚障害者の方々に、日常の生活シーンの中で流れている「音」にはどんなものがあるのか、わかりやすく説明できないか。そんな発想で、(財)共用品推進機構の聴覚情報障害班が(財)日本児童教育振興財団の助成を得て、昨年度から制作に取り組んできた『音見本』生活の音ガイドブック』がこのほど完成した。その内容と使い方を、いくつかの掲載例とともにご紹介しよう。

8つの生活シーン別に、300の「音」を収録

「どんな音情報が流れているのか、わからない」。だから「不便なことは？」と尋ねられても、わからない。

聞こえない人への不便さ調査で、多くの人からご指摘いただいた意見である。こうした声にお応えして、生活の中に流れている音や音声の情報の種類と内容を知っていただくとう企画したのが、この生活の音を見る本『音見本』だ。

収録した音や言葉は約300点。代表的な生活場面別にイラストでまとめた。場面別に1冊のパンフレットのようにっており、1冊の大きさはA1判を横長半切にした大きさ。中央に向かって内側へ4つ折りになって、A4判になるようにした。1度開くと音のないイラスト、もう1度開くと音が記入されたイラストが現れる仕組みになっている。

8冊(8場面)1セットで封筒に入っている。生活場面は、「家」「町」「駅」「電車内」「レストラン」「お店」「病院」「職場」の8場面である。

『音見本』の活用方法

(財)共用品推進機構・聴覚情報障害班では、この『音見本』について、当面、次のような活用方法を考えている。

聞こえない不便さのアンケートとして

この『音見本』を読みながら、アンケートに答えていただき、「こんな音や音声が出ているとは知らなかった」「この情報は大切だ」といったご意見を集約したいと考えている。

このため、近く全国の聴覚障害関係団体に配布する予定である。そのほかにも、アンケートにお答えいただける方や団体には無料で配布する予定で、ご希望の方は下記にご連絡いただければ幸いである。

聞こえない子供さんへの「音を知る教材」として『音見本』では、同じ場面について「音のない風景」と「音のある風景」を交互に見比べることができる。イラストを見ながら、「ここには、どんな音があるのかな？」というように、音を知る教材として楽しく活用していただけたらと思う。

企業の製品・サービス開発の資料として

共用品・共用サービスを開発・提供する際に、「聞こえない人への配慮」を考えていく参考資料として、企業やビジネスパーソンの方々にも活用いただけたらと考えている。希望者に対しては有料での配布を検討している。

.....
現在、たくさんの音を評価、チェックしていくために、答えやすい方法を検討する目的で「プレ調査」を実施している。プレ調査にご協力いただける方についても、多数のご連絡をお待ちしている。

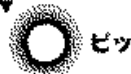
問い合わせ先：(財)共用品推進機構事務局
(TEL 03-5280-0020、FAX 03-5280-2373)

『音見本』の表記の凡例

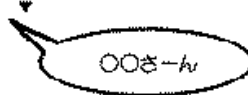
■記号例

■イラストページ

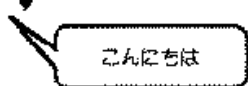
物質▼



姿の覚えにくい話し言葉やスピーカーなどからの音声



対面で交わす話し言葉

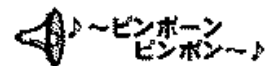
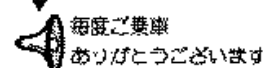


●左右解放ページ

物質▼



ガサガサガサ
スピーカーからの音や音楽



いわずと知れた共用品推進機構の立役者。「障害のある子供たちのためのおもちゃを作りたい」と玩具メーカーに入社した1人の青年の熱い思いは、自分の勤める会社から玩具業界全体へと広がり、やがて、家電や日用品など異業種を巻き込んだ「E&Cプロジェクト」を通じて、「共用品」という産業界の一大ムーブメントとなった。

「他人のことを常に考え、そのために自分で何かをやろうとしている 世の中にはそんな人がたくさんいる。自分もそうありたいし、そんな人たちのために力になる仕事がしたい」

今年4月の「共用品推進機構」発足に至る約20年の軌跡は、類い希な構想力、馬力まかせの行動力、そして、誰をも引きつけてやまない「笑顔」が描いた夢の軌跡でもある。間違いなく、現代日本を代表するアントレプレナー(起業家)の1人であろう。

難しい応用問題を 解く楽しさ

中学生の時には医者になることを夢に見、高校の時は一転、「将来は牧場で働こう」と考えていた。そんな多感な青年が現在の仕事を志すきっかけとなったのは、大学4年の時、友人とある障害児の施設を訪れたこと。そこで「この子供たちが遊べるおもちゃがない」ことを知る。一生の仕事にしたい、と思った。

「とても難しい応用問題を与えられたような気がした。子供の頃から、数学のように答えの出るものが好きだったので、なんだか楽しいことがたくさん待っていそうで、ワクワクした」

こうして、「障害児のおもちゃを作らせて!」と訴えて、幼い時に急逝した父親がかつて勤務していた玩具メーカーのトミーに入社。半年後に願いが叶って、新設された「HT(ハンディキャップトイ)研究室」に配属される。

1年後、最初の「^{せいもくきょうようがんぐ}晴盲共遊玩具」である「メロディーボール」を送り出した。ICを組み込み、転がすと音が出る仕組みで、価格は3200円。当時としては高い玩具だったが、全国に5000人いる視覚障害児に

対して、2年間で3000個も売れるヒット商品になった。

この当時のもう1つの実績は、日本初の「音のカタログ」を作ったこと。その後の円高による業績悪化に伴うリストラで「HT研究室」が閉鎖され、障害児のための玩具開発の予算も大幅に削られる中、「新製品が難しいなら、今あるおもちゃをもっと知ってもらおう」と知恵を絞った成果である。

共用品づくりを 「フツの仕事」に

この当時に築いた人脈は、現在の星川氏と共用品推進機構を支える太い柱になっている。障害者のための商品開発に携わっていた異業種のビジネスマンによって84年に誕生した「風の会」

には、共用品の原点、「グレーゾーン」の考え方を提唱していた工業デザイナー集団「^{リッド}RIDグループ」の人々がいた。共用品推進機構の有力メンバーである^{さとうとしお}佐藤俊夫氏や^{ながいたけし}永井武志氏との出会いである。

83年12月に日本点字図書館、小学館、トミーの共催で東京・^{かんだ}神田の三省堂本店で開いた「視覚障害者のためのゲーム・大活字本展示会」では、^{おうが}相賀昌宏氏(小学館社長、共用品推進機構副理事長)や

シリーズ・Kyoyo人

第2回

^{ほしかわ}星川 ^{やすゆき}安之さん

((財)共用品推進機構専務理事・事務局長)



1957年 東京生まれ。
1980年 自由学園最高学部卒業。(株)トミー入社、商品開発部に配属。同年9月、商品開発部内に発足した「HT(ハンディキャップトイ)研究室」へ配属。
1990年 (社)日本玩具協会内に「小さな凸」実行委員会発足。
1991年 E&Cプロジェクト発足、事務局長に。
1999年 (財)共用品推進機構の設立に伴い、専務理事・事務局長に就任。
(株)トミー 経営企画本部小さな凸室室長。

共用品推進機構ニュース

NEWS

「第26回国際福祉機器展」に独自ブースを開設 福祉機器市場に向け、「共用品・共用サービス」をアピール

(財)共用品推進機構は、10月13日(水)~15日(金)の3日間、東京・有明の「東京ビッグサイト」で開かれる「第26回国際福祉機器展」(主催・全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会)に出展、単独ブースを開設します。当機構が同展に参加するのは、E&Cプロジェクト時代を通じて今回が初めてで、期間中12万人が見込まれる来場者に、「共用品・共用サービス」の考え方や現状を広くアピールしたいと考えています。

共用品推進機構のブースは、東展示ホール3・ブース2609番に開設します。広さは3×3メートル

と決して大きくはありませんが、共用品推進機構の概要、共用品の考え方、共用品と福祉機器(専用品)との違いなどをわかりやすく解説したパネル、シャンプー・リンス、プリペイドカード、共遊玩具をはじめ代表的な共用品などを展示。『共用品白書』、各種「不便さ報告書」など自主刊行物の販売も行う予定です。また、今回の出展を通じて、11月に東京・銀座のソニービルで自主開催する「共用品が開く未来展」(仮称)についても広くPRしたいと考えています。同展の開場時間は午前10時~午後5時。入場は無料です。

ソニービル「共用品が開く未来展」の概要固まる！ 11月8日に「共用品ビジネスを考えるシンポジウム」を同時開催へ

前号でご案内した(財)共用品推進機構が主催する第4回共用品展示会(会場=東京・銀座ソニービル8F「ソミドホール」、会期=11月5日[金]~8日[月]の4日間)の概要が固まりました。タイトルは「共用品が開く未来展~インクルージョン・ウェーブ'99」に内定、会場内をいくつかのゾーンに分け、共用品の着眼点、共用品開発の流れ、代表的な共用品、ハイテクの活用可能性と共用品が開く近未来社会の姿などをわかりやすく展示し、楽しみながら、共用品・共用サービスの現状と将来像が理解できるようにしたいと考えています。

現段階での基本設計では、共用品の手がかりとなる「不便さ」の紹介、共用品の10の配慮ポイント

解説、共用品開発のプロセス解説、今展示会に合わせて新設する表彰制度「共用品大賞」受賞作ほか、代表的な共用品の展示、ビデオ上映コーナー、最新のハイテク共用品の展示、近未来社会のイメージスケッチ、共用品推進機構の概要と活動紹介、書籍・刊行物の販売コーナー、アンケートコーナーと来場者からのメッセージ掲示パネルなど、多様な展示を計画しています。

また、会期中の11月8日(月)には、銀座8丁目のリクルート銀座ビル(予定)で、共用品ビジネスを考える企業・ビジネスパーソン向けのシンポジウムの開催も内定しました。講師、プログラムなど詳細は近日中に決定、改めてご案内する予定です。

花島 弘氏(共用品推進機構理事)らと出会った。

こうして気脈を通じた“16人の侍”によって、「共用品・共用サービスの普及を通じてバリアフリー社会の実現を目指す」任意団体のE&Cプロジェクトが旗揚げするのは、91年4月のことである。

そして現在、E&Cプロジェクトを公益法人に作り替えた心境を尋ねると、「ネクタイを買った気分。これで、外国の高級レストランにも入っていける。財団化に向けた準備作業の最中、新財団の名前をどうするか、多くのメンバーが「E&C」にこだわるのを尻目に、一番愛着を持っているはずのこの創設者は「思い切ってE&Cの名前は捨てよう。未来の

発展のために」と、あっさり言い切った。情に厚く、涙もろい人情家の、もう1つの側面である。

「企業が共用品を作ることが、ごく当たり前のフツウの仕事になる。我々のやっていることも、フツウの仕事になる。それが今後の目標だ」

アントレプレナーの真価が問われるのは、新たな成長ステージに到達してからである。「機構の将来はひとえに星川さんの実行力にかかっている」(鴨志田厚子理事長)。代わりはいないのだ。好漢、大いに動いて、その笑顔と腕っぷしを磨くべし。

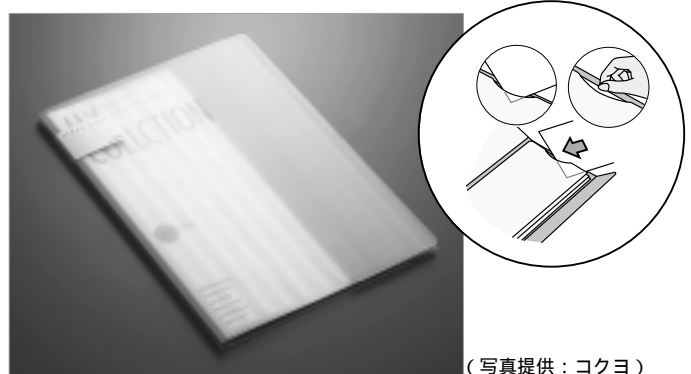
(取材と文・高嶋 健夫)

● ニュース&トピックス

経営・新製品・新サービス・新技術・イベント

**「ココヨ」 “文具のユニバーサルデザイン化”を推進
第1弾は、出し入れしやすいクリアブック「ウェブレ」**

事務用品・オフィス家具大手のココヨが、ステーションナリー（文具）分野でのユニバーサルデザイン製品の開発に乗り出した。高齢人口の増加などをにらんで、独自の「ユニバーサルデザイン製品開発ガイドライン」を定めて研究開発を進めており、第1弾として、書類を出し入れしやすいクリアブック「ウェブレ」を10月に発売する。



(写真提供：ココヨ)

ポケットに、独特の「波形カット」を採用

「ウェブレ(wavelet = さざ波)」は、透明樹脂製のクリアファイルを1冊に束ねたA4判のクリアブックで、ポケット数は20あり、標準小売価格は600円。最大の特徴は商品名の通り、各ファイル上部の、書類を出し入れするポケット口に、ちょうどテレホンカードの切れ欠きを大きくしたような、浅い波形の切れ込みを入れたこと。この工夫によって、ファイルしたい書類を片手でも楽に出し入れできるようにした。出す時は、切れ込みのところで中の書類をつまんで引き出す。一方、入れる時は、書類の四隅の1つを切れ込みに滑り込ますようにして入れれば、スッと入っていく。

従来のクリアブックの場合はどうしても、片手でファイルの袋をつまみ上げて口を開き、もう一方の手で書類を入れたり、出したりしなければならなかった。このため、1枚の書類を出し入れするのにイライラさせられることも多く、とりわけ片手が不自由な人、指先の力が弱った人、手ががさついている人などには使いづらい欠点があった。

そこで、ココヨでは形の違う数タイプのカットを試作、片まひのある人などにもモニターしてもらったうえで、波形カットの採用に踏み切った。この波形カットは実用新案を申請している。

このほか、右側の表紙に、中のファイルの型くずれを防ぐ保護フラップを付けるなど、使いやすさに配慮したきめ細かな工夫を施している。

「5 + 1の要件」を定める

ココヨでは、ユニバーサルデザイン製品の展開に当たって、故ロン・メイス氏が提唱した7原則などを参考に、独自の「5 + 1要件」を定めた。具体的には、製品としての基本機能・基本性能の確保、使用前・後・保管時の安全性の確保、表示・色彩・形状などでの配慮、軽便・単純・普遍的な操作性の追求、操作の正否などの情報判定の仕組みの追求、そして適正な価格の6点だ。これを社内のデータベースに入れ、新製品の企画・開発の際には、いつでも確認できるようにしている。

「今後の高齢者市場の拡大をにらみながら、文具という万人向けの商品分野で、今まで当たり前と思っていた機能が、はたして本当に当たり前のものだったのか、もう1度、商品企画の原点から見直していきたい」(山本 幸裕^{やまもと ゆきひろ}マーケティング部主任)としており、これに続いて、左利きの人でも使いやすい修正テープ、罫が広い高齢者向けのノートなどを順次商品化していく計画だ。

同社は家具・家庭用品分野では、大阪市内に高齢者向け自立支援用品の直営アンテナショップを近く開設する予定で、ステーションナリー分野でもこれに歩調を合わせるように、高齢者市場での販売強化を目指す考えだ。

(高嶋 健夫)

問い合わせ先：ココヨ(株) 東日本営業本部マーケティング部 (TEL 03-3474-9125)

キーワードで考える共用品講座 第2講

共用品と政策

後藤 芳一 (個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師)

今回は、共用品と政策の関わりを見ていこう。

(このコラムの活用法 = 太字のキーワードを100 ~ 200字ずつで解説していくと、簡単にミニ報告書ができます)

1. 国際的な動向

WHO(世界保健機関)の「国際障害者分類(1980年)で障害対応の方向が整理され、「国際障害者年」(81年)と国連「障害者の10年」(83~92年)、国連「アジア太平洋障害者の10年」(93~2002年)で取り組みが広がった。

米国「ADA(障害のあるアメリカ人法)」(90年)が障害者対応の高い理念を示した。

2. 福祉政策

わが国は「福祉8法の改正(90年)」「障害者対策に関する新長期計画(93年)」「障害者基本法(93年)」「障害者プラン(95年)など障害者対応が先行した。

近年の高齢化で「ゴールドプラン(89年)」「新ゴールドプラン(94年)」「高齢社会対策大綱(96年)」「介護保険法(97年成立、2000年施行)が整備された。これを受けて、「福祉用具法(93年)」「ハートビル法(94年)が施行され、共用品普及の環境

が用意された。

3. 産業政策

「福祉用具産業懇談会(96年~)やその報告書で、「福祉用具産業政策」が位置付けられた。その後、「経済構造の変革と創造のためのプログラム」(96年)「同行動計画」(97年)「同第1回フォローアップ」(97年)「同第2回フォローアップ」(99年)「生活空間増進計画(98年)」「緊急雇用対策及び産業競争力強化対策(99年)など、総合的な経済政策の中で重要な位置を占めるようになった。

4. バリアフリー関連施策

「交通ターミナル障害者施設整備ガイドライン」(83年)「公共交通の車両構造モデルデザイン」(90年)「情報処理機器アクセシビリティ指針」(90年)「鉄道駅におけるエスカレーターの整備指針」(91年)「ハートフルビルディング整備事業」(92年度)「鉄道駅におけるエレベーターの整備指針」(93年)「空港施設整備指針(94年)」「アクセシビリティ指針の改訂」(95年)「宿泊施設バリアフリー化のガイドライン」(96年)「共用品の市場規模調査(98年)」「高齢者配慮製品の国際標準化」(98年)など、建築物、街づくり、交通は80年代から障害者対応の取り組みが続けられた。90年代後半からは、共用品・共用サービスが直接の政策対象になりつつある(『共用品白書'99』pp.42~53に関連する記述があるのでご参照ください)。

携帯型の歯ブラシ殺菌器「クリーンボックスミニ」 ワールドバイオニアが発売

ワールドバイオニア(東京・中野区)は旅行などに携帯できる歯ブラシ殺菌器「クリーンボックスミニ」を発売した。水洗いした歯ブラシを本体に入れてふたをすると、自動的に電源が入り、紫外線ランプが5分間点灯して殺菌する。(財)日本食品分析センターの照射試験では、口腔内雑菌の99%を退治できたという。

価格は3800円。単4電池2本で、約2カ月間使用できる。長さ190ミリ×40ミリ、重さ100グラム。ケースは、赤、青、緑、黄色の4色がある。

問い合わせ先:

(株)ワールドバイオニア (TEL 03-3229-2282)

見た目も楽しいワイン用品「サンクラフトQ」 川嶋工業がシリーズ3点を同時発売

川嶋工業(岐阜県関市)は、インテリア・オブジェとしても楽しめるワイン用品シリーズ「SUNCRAFT Q」を発売した。「なんかいいね」をコンセプトに、機能性だけでなく、楽しい雰囲気演出する感性型の商品として開発した。

ウイング型コルク抜き(ワインオープナー)、ワインラック、ワインクーラーの3品目で、それぞれ3色のカラーバリエーションを用意している。価格はコルク抜きが3500円、ラックが1500円、クーラーが3800円。

問い合わせ先:

川嶋工業(株) 企画部 (TEL 0575-23-3222)



『ホラ きいてごらん 麦の音』

みうら しろう
三浦 史朗 / 三浦 みを著
(かもがわ出版 1810円)

9歳の時、ブランコから飛び降りてコンクリートの壁に頭を打つ事故にあった三浦史朗くん。一時は意識不明に陥ったが、家族の献身的な介護によって6カ月半の眠りから目覚めて以来、まわりの人に「活きた言葉と絵」で優しく、時にはせつなく語りかけ続けた6年間の歩みをま

とめた1冊。

母親のみをさんが「参加した福祉の会で『障害者のために...、障害者のために...』と繰り返されるのを聞いて『ぼくって障害者なの?』とつぶやいたことがありました。重い重いこの問いかけを、深く大事に考え続けていかなければと思っています」と語っている。素直な言葉の中に秘められた思いを、心で読みたい本である。(M)



『不便なことは素敵なこと』

きりたに
桐谷 エリザベス著
桐谷 逸夫 訳+画
(マガジンハウス 1500円)

アメリカのとある財閥の娘さんがひよんな事で日本人男性と結婚。日本で生活する彼女が感じたのは、日本人がよく言

う「欧米と比べた日本のひどさ」とは正反対の「日本の素晴らしさ」。

しかしその中で、季節感なくスーパーに並び始めた野菜や果物を例に、物質的便利さへの警告を、英語に直訳できない「懐かしさ」という言葉で表現している。日本を再発見できる1冊。(H)



『知的障害者の人権』

まつともりよう
松友 了著
あかし
(明石書店 2200円)

知的障害者の人権問題を基本的視点から8人の専門家がそれぞれの見解で執筆。知的障害者の雇用就労の実相、日本における本人活動に至るまでの現状、そして、安心した生活を送るために、地域での豊かな自立生活の実現にむけての活動や意志のあり方について、わかりやすく説明している。(M)



『梯 剛之 プレイズ ショパン』(CD)

梯 剛之
(キング・レコード 2913円)

98年12月のロン=ティボー国際音楽コンクールで2位入賞し、話題となった新進気鋭の全盲ピアニストのショパン集。ソナタ「葬送」、ポロネーズ「英雄」ほか9曲を収録。繊細にして華麗な弱音で彩る、輝かしい精神世界。こんなショパンは聴いたことがない。名盤。(T)

『インクル』からのお願い

個人・法人賛助会員を募集しています！

(財)共用品推進機構では、共用品・共用サービスの普及と誰もが暮らしやすいバリアフリー社会の実現に共に取り組んでくださる個人・法人賛助会員を募集しています。いずれも『インクル』『共用品推進機構だより』の定期購読など情報提供サービスを受けられるほか、さまざまな特典があります。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。お問い合わせは、事務局まで、お願いいたします。

企業や団体からのニュース提供をお待ちしています！

『インクル』は共用品・共用サービスの専門情報誌です。新製品の発売、新サービスの提供開始、新技術の開発、展示会やイベントの開催、常設展示場の開設 共用品・共用サービスに関するニュースリリース、カタログ、パンフレット、広報誌などの資料をお寄せください。ご連絡は、下記の事務局『インクル』編集部まで。

個人からの寄稿・投稿も大歓迎！ お待ちしています！

『インクル』は消費者と企業をつなぐ架け橋です。「バリアフリーサービスの素敵なお店」「心のバリアフリー体験談」「海外ユニバーサルデザイン事情」などなど、個人賛助会員の皆様の声はもとより、法人賛助会員の読者の方々からのご意見もお待ちしています。宛先は下記の事務局『インクル』編集部まで。お手紙やはがきのほか、FAXや電子メールでも結構です。

広告の出稿もお待ちしています！

『インクル』は共用品・共用サービスの普及を担うオピニオン・リーダーにお届けしています。共用品・共用サービスの普及促進に寄与し、『インクル』の情報価値を高めるために、出広媒体としてもご利用いただければ幸いです。99年度の広告料金表は事務局にご用意していますので、お問い合わせください。

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル

創刊2号

1999(平成11)年9月15日発行

"Incl." vol.1 no.2

©The Kyoyo-Hin Foundation,1999

隔月刊、奇数月に発行

頒価 1部1000円

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル8F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局

星川 安之

森川 美和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 後藤 芳一

(五十音順) 西川 菜美

芳賀 優子

橋本 英和

牧内 智子

松井 智

山本 明彦

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。

こころの色 心のかたち

小学館 エイブルアートの本

風のうまれるところ

はたよしこ 文 小野庄一 写真
絵 すずかけ作業所のアーティストたち
定価：本体2190円＋税

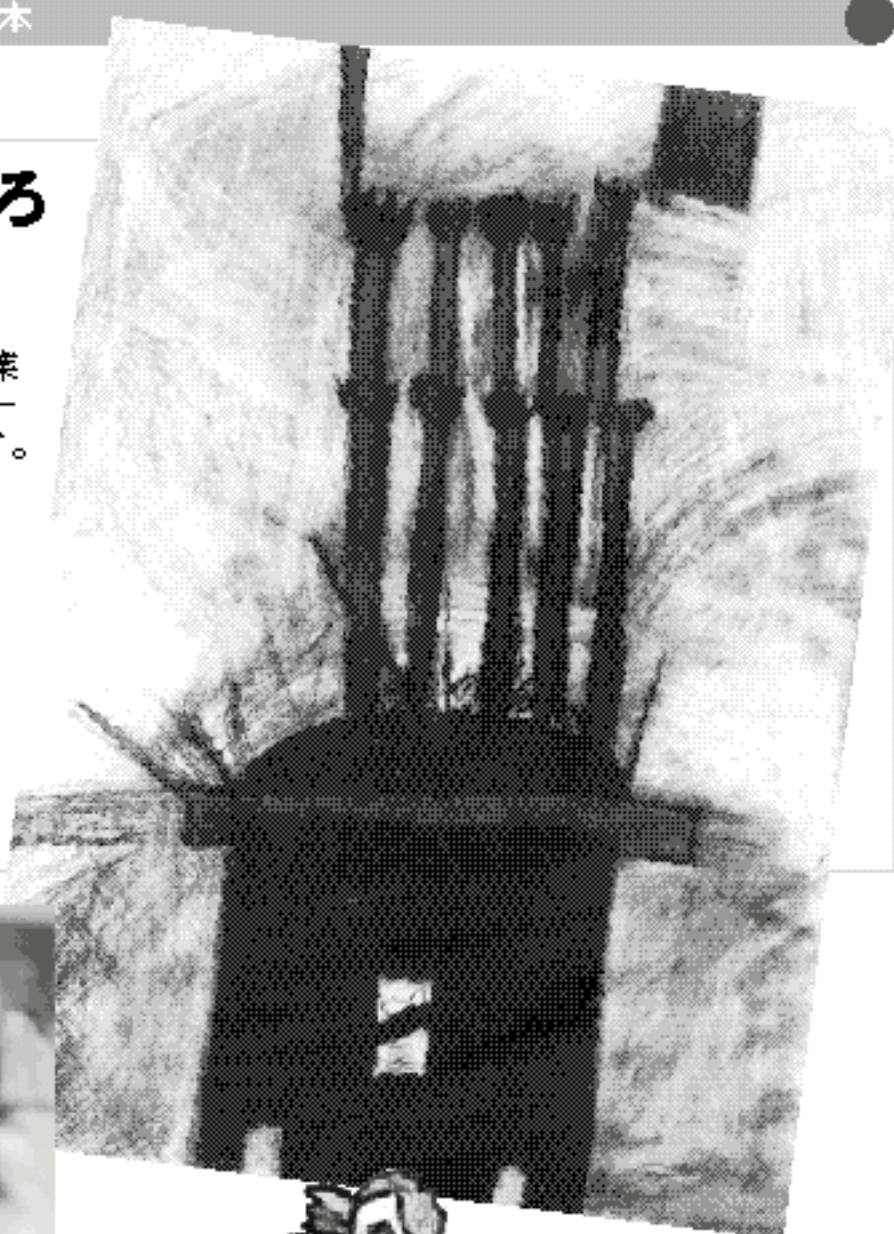
知的障害者施設西宮市すずかけ作業所のアーティスト12人の作品と、アートボランティアはたよしこのエッセイ。



AUTOS

こころの色
心のかたち
アトリエ アウトス 作品
小野庄一 写真
定価：本体2381円＋税

自閉症者施設柏ヶ浦
ひかりの学園で制作
する5人の作家の絵と
陶芸作品集。心の内
に秘められた色と形。



えのぐの詩

黒柳希子、筑紫あやほか 文
定価：本体1400円＋税

障害者20人の作品
に、著名人20人が文
章を添えた、心あた
たまる合作絵本。

